

# 君達の頭脳硬直ビヤホール

藤田湘子

俳句の面白さは意外性にある。勿論、定型の五七五や季語、切字の骨格を受け継ぎ、写生やリズム感を重視した名句も多い。しかし、和歌の伝統とは一線を画し、滑稽、飄逸、警句、大衆性などの要素と反応した佳句が生まれていれば、脱帽するしかない。

場所は銀座のビヤホールだろうか。鷹の若手や同人と飲んでいて、即興の一句かも知れない。それとも席題だろうか。状況はあれこれ想像できるが、「君達の頭脳硬直」と普段から腹に溜まっていた不満を一気に吐露し、「ビヤホール」の下五でカチリと一句に仕立てる手際良さ。参りましたと頭を下げるしか、この季語は動かしようが無く、明快で名句なのだと思うにいられない。

1998年（H10作）第十句集『神楽』 鑑賞・轍郁摩